宮川流域振興調整会議　事項書

日時：令和４年 11 月 21 日(月)
16:45 ～ 17:00
場所：プレゼンテーションルーム

【議題】

・宮川における流量回復の実施結果と検証について＜協議＞・・・ 資料１
（ P.1,～P.3）
・宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議について＜報告＞・・・ 資料２
（ P.4）

宮川流域振興調整会議
出席者名簿

令和４年１１月２１日（月）
１６：４５～１７：００
県庁３階
プレゼンテーションルーム

（敬称は略させていただきました）

	氏名	
副　　知　　事	廣田 恵子	座長
副　　知　　事	服部 浩	副座長
総務部長	高間 伸夫	委員
地域連携部長	後田 和也	委員
農林水産部長	更屋 英洋	委員
県土整備部長	若尾 将徳	委員
企業庁長	山口 武美	委員
環境生活部長	中野 敦子	
教育長	木平 芳定	

資料1

宮川における流量回復の実施結果と検証について

１．流量回復放流の目的

三重県が策定した宮川流域ルネッサンスビジョン（平成10年２月）に掲げられた基本理念「豊かな清らかな川の流れを甦らせる健全な水循環の構築」を目指し、平成13年３月に流量回復方策の目標として定めた「粟生頭首工直下3.0㎥/ｓの流量確保」を達成することを目的として、宮川ダムからの放流を実施する。

（宮川における流量回復放流実施要領　第２条より）

２．令和４年度における運用実施結果について

（１）運用実施期間

令和４年４月１日（金）～ ９月30日（金）

（２）運用実施結果

○【試行】かんがい放流と流量回復放流の同時放流実施

・流量回復放流量　　7月29日～8月8日（11日間）　202.6万㎥／1,000万㎥

・かんがい放流量　　7月29日～8月5日（８日間）　59.9万㎥／　750万㎥

参考：(単独)かんがい放流量　4月13日～4月15日（3日間）　75.0万㎥／　750万㎥)

○粟生頭首工下流放流量が３㎥/sを下回った日数　　0日間

【参考】これまでの流量回復放流の運用実施結果

・H26年度　　：66.4万㎥

・H28年度　　：99.3万㎥

・Ｒ２年度　　：521.6万㎥

３．流量回復取組の総括

流量回復放流とかんがい放流の同時放流は、単独での放流に比べ、宮川ダム貯水量の減少が早まることや、放流水の水質悪化（濁水）のリスクが非常に高くなります。

また、6月からの実施となれば、アユ漁や稲作への影響など、さらにリスクが高まります。

今回の取組の後に実施した関係者へヒアリングにおいても、これらのリスクを心配する意見が出ています。

今年度の同時放流は7月29日からの実施であり、8月中旬以降にはかんがい用水の必要量が判っていたため、流量確保の目的は達成できましたが、情報共有や運用内容の確認等で放流判断が遅れたことで、ダム運用に影響を与える恐れがありました。

そのため、運用手順の簡素化など見直し変更や関係機関へ情報収集及び提供を行い、適正な放流判断を行うなどの改善を図ることとします。

試行用運用ルールに不備が無くなり、これらのリスクへの対策が十分に確認されるまで、拙速に本格運用に入るのではなく、試行により実績を積み重ね、慎重に検証を継続することとします。

資料１

＜参考＞

今年度の流量回復放流の運用期間終了後、主要な関係機関から課題、要望など意見を聴いた上で検討を行いました。主な関係者からの申し入れ内容・調整事項は次のとおりです。

（1）かんがい放流と流量回復放流の同時放流試行運用の実施について（新規）

①関係者からの申入内容

同時放流の開始、流量変更、停止の判断において、かんがい放流は宮川用水土地改良区、流量回復放流は水資源・地域プロジェクト課が実施主体である。それぞれの放流実施主体者が別機関であることから、両方の放流手順を考慮したうえで、放流量の管理方法及び放流手順について検討していただき、放流判断を適正に行っていただきたい。

〔対応案〕　宮川の河川自流量が減少傾向時は、毎日関係機関と直接連絡を行い情報収集することとする。また、放流実施主体者が異なる、かんがい放流会議に参加し関係機関へ情報収集及び提供を行い、流量回復放流の検討及び調整を行い、適正な放流判断をすることに努めたい。

②関係者からの申入内容

流量回復運用において流量変更が少量であっても即時に対応出来るように、放流手順及び様式も簡潔にして、数時間でも放流操作が遅れることのない体制を整えていただきたい。

〔対応案〕　速やかな流量回復放流操作体制を整えるために、実施要領及び運用、手順書について、検証結果を鑑み、手順の簡素化など見直し変更を進めることとしたい。

（2）かんがい放流と流量回復放流の同時放流について（①継続、②新規）

①関係者からの申入内容

運用ルールにおいて、かんがい放流実施時には流量回復放流を実施しないこととしているが、かんがい放流実施時は粟生頭首工下流放流量が３㎥/s を下回るため、かんがい放流と流量回復放流の同時放流について検討を進めてほしい。

②関係者からの申入内容

同時放流は単独での放流に比べ、宮川ダム貯留水量の減少が早まることや、放流水の水質悪化（濁水の発生）などのリスクが高くなるということを十分に理解したうえで、拙速に本格運用に入るのではなく慎重に試行を続けてもらいたい。

〔対応案〕　河川状況に応じて試行運用を実施することで、関係機関の協力のもと、放流量の管理方法、放流手順等について実績を積み重ね、慎重に検証を継続して行うこととしたい。

資料１

（３）土日等の休日の対応について（継続）

①関係者からの申入内容

運用期間中は、土日、祝日、お盆期間を問わずに、流量回復開始等の操作を実施できる体制としてほしい。

〔対応案〕　令和３年４月に「宮川における流量回復放流実施要領の運用」を一部改正し、同時放流実施時には、予め体制を整えられる場合、流量の減量、停止に限り、休日 8 時 30 分から 17 時まで対応することとした。今後も必要な体制の検証に取組むこととする。

（４）放流量の河道ロス率について（継続）

①関係者からの申入内容

放流量の河道ロス率を５％としているが、５％が妥当であるかについて放流した実績から検証してほしい。

〔対応案〕　検証に必要となる観測流量のデータのとりまとめを行い、今後の検証に備えデータ蓄積を行った。しかし放流実績がまだ少ないことから、今後もデータを蓄積し妥当性の検証に取組むこととする。

資料２

宮川のより良い流況に向けた流量回復等検討会議について

〇令和４年８月 25 日　第１回検討会議を開催

【内容】令和３年度調査、検討結果の報告

（各部局の主な取組）

地域連携部：シミュレーション結果によりダム放流について、利水者への影響が大きいことを確認

県土整備部：桧原谷川合流点手前に水位計を設置し、その下流の岩井地点と合わせた２地点で流量観測に着手

農林水産部：鮎の餌環境及び水温は適していることを確認

環境生活部：通常時の水質調査結果は、概ね環境基準を満たしていることを確認

教育委員会事務局：天然記念物ネコギギの生息状況をまとめ、ネコギギ保護管理指針 2021 を発行

【内容】令和４年度の取組

（各部局の主な取組）

地域連携部：検討結果を基に、利水者などの関係者と意見交換を開始

県土整備部：流況を把握するため 2 地点での流量観測を継続調査

農林水産部：生息環境調査について、付着藻類と水温調査について継続調査

環境生活部：流量回復前後の水質状況の調査を継続

教育委員会事務局：引き続きネコギギに関するデータ蓄積